

1

書くことの基礎① 言葉の使い方

Q 文を書くうえでまず気をつけることは？

A 正しい表記と適切な言葉の使い方を書くこと！

チェック

1 仮名遣いや送り仮名などの表記は正しいか。

例 ×おねいさん ↓おねえさん

×はづれる ↓○はずれる (外れる)

×失なう ↓○失う ×暖たかだ ↓○暖かだ

2 句読点を適切に用いているか。

例 兄は怒り、姉は笑い、母はあきれた。

↓兄は怒り、姉は笑い、母はあきれた。

動物園や水族館、植物園などで働きたい。

↓動物園や水族館、植物園などで働きたい。

3 助詞を適切に用いているか。

例 ×試合を|続く。 ↓○試合が続く。

×試合が|続ける。 ↓○試合を続ける。

×絵を見たり、本を読んだ。 ↓○絵を見たり、本を読んだりした。

4 話し言葉を用いてしまっていないか。

例 ×ひとごと|じやない。 ↓○ひとごとではない。

5 文体は、常体(だ・である調)、あるいは、敬体(です・ます調)で統一されているか。

チェック2 句読点を適切に打つ

② 次の各文がわかりやすい文になるように、「」に示した数の句読点を打ちなさい。なお、「」に示した数は、句点と読点を合わせた数である。

(1) 昨日はとても寒かったが今日の寒さはそれほどでもない (二個)

(2) 雨が降り出したので観客は一斉に雨具を取り出した (二個)

(3) 今になって思い出されるのは小学校の卒業式の際のみんなの表情である (二個)

(4) 今日兄は友達と一緒に図書館に行った姉は一人で水族館に行った (三個)

(5) 私が宿題をしていたとき弟はテレビを見ていたが妹は本を読んでいた (三個)

ポイント

○文の終わりには句点を打つ。

○文意が捉えやすいように適切な位置に読点を打つ。

主語と述語の組み合わせが二つ以上ある文の区切りや、接続詞や感動詞の後などに打つ。

① 次の各文には、仮名遣いや送り仮名の誤りがある。それぞれ正しい仮名遣い・送り仮名の文に書き換えなさい。

例 ついぶん明かるい部屋だ。「ずいぶん明るい部屋だ。」

(1) 小さい子供がおとおさんに何かゆっている。

(2) 秋がおとづれたのをしみぢみと感じる。

(3) 今はじっくりと実力を養なうときだと思ふ。

(4) 必らず部屋をかたづけると約束する。

ポイント

○ア・イ・ウ・エの長音(伸ばす音)は「あ・い・う・え」を添える。

○オ列の長音は「う」を添える。オ列の仮名に「お」を添える語に注意する。

○動詞の「言」は、「い」「書」へ。

○次のような場合を除く「ひ」「つ」は用いず、「つ」「ち」を用いる。

・ 同音の連呼 例 つづく(続く) ・ 二語の連合 例 はなぢ(鼻+血)

○誤りやすい送り仮名に注意する。

例 ×新らしい↓○新しい ×短がい↓○短い ×少い↓○少ない

×果す↓○果たす ×生れる↓○生まれる

③ 次の文は、二通りに意味がとれる。それぞれ後に示した意味になるように、適切な位置に読点を一つ打ちなさい。

例 弟は笑いながら走る姉を追いかけた。

① 「笑っている」のは「弟」

「弟は笑いながら、走る姉を追いかけた。」

② 「笑っている」のは「姉」

「弟は、笑いながら走る姉を追いかけた。」

(1) 母は不安そうな顔でたたずむ娘を見た。

① 「不安そうな顔」なのは「娘」

母は不安そうな顔でたたずむ娘を見た。

② 「不安そうな顔」なのは「母」

母は不安そうな顔でたたずむ娘を見た。

(2) 私は川田さんと小林さんの話を聞いた。

① 「話を聞いた」のは「私」一人

私は川田さんと小林さんの話を聞いた。

② 「話を聞いた」のは「私」と「川田さん」

私は川田さんと小林さんの話を聞いた。

ポイント

○係り受けをはっきりさせるために読点を打ち。

読点がないと、係り受けが曖昧になり、二通りの意味にとれる文になることがある。

④ 次の□に当てはまる助詞を書きなさい。

例
 思わず涙が流れる。
 思わず涙を流す。

(1) 都会 □ 住んでいると自然が恋しくなる。

(2) 米粉 □ 作ったパンが好きだ。

(3) 山に登ったり、海で泳い □ するつもりだ。

(4) 歌手とか女優 □ 芸能人と呼ばれる人になりたい。

(5) ① 祖父母からお祝いの品 □ 届く。
 ② 祖父母がお祝いの品 □ 届ける。

ポイント

- 意味の通じない使い方をしてはいけない。
- ×試合が続く。→○試合が続く。
- ×試合が続ける。→○試合を続ける。
- *「続ける」のような他動詞と、「続く」のような自動詞の使い分けにも注意する。
- 並べて用いる、並立の関係を示す助詞を正しく使う。
- ×絵を見たり、本を読んだ。→○絵を見たり、本を読んだりした。

⑥ 次の文体がそろっていない文章について、後の問いに答えなさい。

私は、カレーが大好きだ。家で作るカレーと、専門店の本格的なカレーでは、味が全く違います。私は料理が好きなので、いつか専門店のような味のカレーを作れるようになっていたいと思っている。

(1) この文章を常体で統一した文章にするには、どの文を書き換えればよいか。敬体で書かれた文を常体の文に書き換えなさい。

(2) この文章を敬体で統一した文章にするには、どの文を書き換えればよいか。常体で書かれた文を敬体の文に書き換えなさい。

ポイント

- 文体は、常体(だ・である調)、あるいは、敬体(です・ます調)のどちらかに統一する。
- 〈条件〉として文体の指示がある場合は、その指示に従う。

⑤ 次の各文は、——線部に話し言葉が用いられている。それぞれ書き言葉を
用いた表現に書き換えなさい。

例 そのままにしとくのは無責任だ。「しておく

- (1) 運に恵まれると、この辺りでは鯨が見れます。
- (2) 明後日までに提出しなくちゃならない。
- (3) 確かに、そうは思わない人もいるかもしれない。
- (4) 反対してる人の意見も聞くべきだと考える。
- (5) そこでは日本各地の名物料理が食べれます。
- (6) 自分の意見をはっきり述べることが重要なんだって思う。

ポイント

文章は、書き言葉で書くのが基本。表現や語法のゆれに注意し、正しい文法にのっとり書く。

単元1のまとめ

◆ 次の文章について、後の問いに答えなさい。

① 私たちは普段、イチゴが果物として食べています。しかし、じつは、イチゴはスイカのように果物ではありません。木ではなく草であるイチゴは、野菜に分類されるのです。イチゴに関してはほかにもおもしろいことがあります。私たちが食べている赤い部分は、実ではないのだ。種のように見える粒の一つづつがそれぞれ実なのです。

(1) ——線①「私たちは普段、イチゴが果物として食べています。」には、助詞の使い方が適切でない部分がある。その助詞を抜き出し、適切な助詞に直しなさい。

(2) ——線②「イチゴはスイカのように果物ではありません。」は、意味が二通りにとれる。イチゴもスイカもじつは果物ではないことを意味する文になるように、適切な位置に読点を一つ打ちなさい。

(3) ——線③「種のように見える粒の一つづつがそれぞれ実なのです。」には、仮名遣いの間違ひがある。正しい仮名遣いの文に書き直しなさい。

(4) この文章には、文体が他とそろっていない文が一つある。その文を他の文と同じ文体の文に書き換えなさい。

2

書くことの基礎② 文の組み立て

Q わかりやすい文を書くために気をつけるべきことは？

A 文の組み立てに気をつけること！

チェック

1 主語と述語は対応しているか。

例 ×将来の目標は、歌手になりたい。

○将来の目標は、歌手になることだ。

2 修飾語は適切な位置に置かれているか。

例 ×ある三月のとても暖かい日のことだった。

○三月のとても暖かいある日のことだった。

3 呼応の副詞（後に決まった言い方を求める副詞）は、対応する語とともに用いられているか。

例 ×おそらく彼は欠席する。

○おそらく彼は欠席するだろう。

*「おそらく」は推量の表現と呼応。

※呼応の副詞のいろいろ

・「だろう」「などの推量の表現と呼応…」「たぶん」「おそらく」「きっと」

・「でも」などの仮定の表現と呼応…」「もし」「たとえ」

・「か」などの疑問の表現と呼応…」「なぜ」「どうして」「

・「ない」などの打ち消しの表現と呼応…」「決して」「少しも」

・「むしろ」「などのたとえの表現と呼応…」「まるで」「あたかも」

チェック2 修飾語を適切な位置に置く

② 次の各文は、——線部の修飾語と——線部の被修飾語の関係がわかりにくい。言葉の位置を変えて、修飾・被修飾の関係がはっきりした文に書き換えなさい。

(1) ほとんどあの場に居合わせた人はいらないらしい。

(2) じっくりとその問題については今度の休みに考えるつもりだ。

(3) 私は、町の歴史を中学校に入学したら調べてみたいと思っていた。

(4) 幼なじみの私の姉のことを本当の姉のように慕っていた山口さんが引越すことになった。

チェック1 主語と述語を正しく対応させる

① 次の各文の主語（主部）と述語（述部）が対応するように、例にならって線部を書き換えなさい。

例 私の今年の目標は、公式戦に出場したい。
「公式戦に出場することだ」

(1) 私の将来の夢は美容師になりたいです。

(2) 私の願いは、世界に平和が訪れてほしい。

(3) 私が生け花を始めたのは、花を生ける祖母をすてきたと思ったから始めた。

(4) 試合に臨むとき、私が注意しているのは、集中力を切らさないようにしたい。

ポイント

主語と述語をはっきりさせ、抜けやねじれが生じないようします。

③ 次の各文は、二通りに意味がとれる。それぞれ後に示した意味になるように、語順を入れ替え、意味が明確にとれる文に書き換えなさい。

例 多くの猫を飼っているお年寄りたちが集まった。
* 「多い」のは「お年寄りたち」
「猫を飼っている多くのお年寄りたちが集まった。」

(1) 先週電話をくれたガス会社の人 came 来た。

* 「ガス会社の人」が「来た」のが「先週」

(2) 白い大きな看板のある建物が目的の施設です。

* 「白い」のは「建物」

(3) 多趣味な林さんのお兄さんに写真を撮ってもらった。

* 「多趣味」なのは「林さんのお兄さん」

ポイント

○ 修飾語と被修飾語の位置が離れすぎていると読む人に誤解を与える可能性がある。
○ 被修飾語に対する修飾語が多い場合は、「いし」「いび」「は」は文頭に置き、それ以外は長いものから並べる。

チェック3

呼応の副詞は対応する語とともを用いる

④ 次の各文が意味の通る文になるように、に平仮名一字ずつを当てはめなさい。

例 よもや中止にはなる。

↓よもや中止にはなる。

- (1) どんな苦境に陥っても、決して弱音は吐かぞ。
- (2) たとえ苦しく、最後までがんばる。
- (3) ぜひ我がプラスバンド部に入部して。
- (4) まるで石になったかの動けない。
- (5) もしあのまま続けてい、どうなっていたのだろう。
- (6) まさか失敗に終わるようなことはある。
- (7) どういうわけか今日は少しも眠く。
- (8) どうか彼の参加を認めてやって。
- (9) なぜそんなに急ぐ必要があるの。
- (10) きっとやむを得ない事情があったの。

単元2のまとめ

◆ 次の文章について、後の問いに答えなさい。

① 私の夢は、登山家となって世界の山々を踏破したい。その山々とは、例えば、エベレストやキリマンジャロ、モンブランなどである。私は、これらの山々に子供の頃からいつか大人になったら登ってみたいと思っていたのである。とはいえ、おそらく多くの困難が待っている。□が悪い兄の友人たちからは、「無理だよ」と言われる。だが、それでも私は、夢を追い求めていきたいと思う。

(1) 線①「私の夢は、登山家となって世界の山々を踏破したい。」とあるが、この文は主語と述語が対応していない。この文について、次の各問いに答えなさい。

① 「私の夢は」を主語（主部）として、主語と述語が対応するように書き直しなさい。

② 「私は」を主語として、主語と述語が対応するように書き直しなさい。

③ 「私の夢だ」を述語（述部）として、主語と述語が対応するように書き直しなさい。

⑤ 次の各文を指示に従って書き換えなさい。

○ 私も参加する。「ぜひ」を用いた、「私」の希望を述べた文に
「ぜひ私も参加したい。」

(1) 彼は歴史に名を残す。「たぶん」を用いた推量の表現に

(2) 負けてしまった。「なぜ」を用いた、負けた理由を問う表現に

(3) 雨が降ったので延期だ。「もし」を用いた仮定の表現に

(4) 欠席することはない。「まさか」を用いた、打ち消し推量の表現に

(5) さまざまな原因があるのだ。「おそらく」を用いた推量の表現に

ポイント



呼応の副詞は対応する語とともに用いる。

(2) — 線②「私は、これらの山々に子供の頃からいつか大人になったら登ってみたいと思っていたのである。」は、修飾部である「これらの山々に」と被修飾語(部)との関係がわかりにくい。「これらの山々に」の位置を変えて、この修飾・被修飾の関係がわかりやすくなるようにこの文を書き換えなさい。

(3) — 線③「おそらく多くの困難が待っている。」を、呼応の副詞と対応する言い方のある文に書き直しなさい。

(4) — 線④「口が悪い兄の友人たちからは、『無理だよ』と言われる。」は、「口が悪い」のが「兄」だとも「(兄の)友人たち」だともとれる文になっている。言葉の位置を変えて、「口が悪い」のは「(兄の)友人たち」であることがはっきりする文に書き直しなさい。